

発掘調査の結果、奈良・平安時代の土壙、中世の溝及び柱穴、江戸時代の溝・土壙・柱穴・蔵の礎石などを検出した。木簡は江戸時代後期の土壙から、木製品と共に計八点出土している。また、奈良時代の土壙から「大一」と判読できる墨書土器が出土している。

# 8 木簡の釈文・内容

出土総数八点の木簡の内、判読できるものは三点であった。

(1) 「三十二升五合合」

180×30×17

(2) ・□島十郎左衛門」

・赤□村」

(67)×12×2

(3) ・□□□□」

・「□島村」

61×12×2

木簡は、現存する吉田城の絵図面にのる安政四年（一八五七）まで米蔵が存在した地点から出土したものであり、米蔵移転に伴いその後造られた土壙に荷札が投棄されたものと考えられる。

（小畑頼孝）

## 静岡・坂尻遺跡

さかしり

- 1 所在地 静岡県袋井市国本
- 2 調査期間 一九八一年（昭56）八月～九月
- 3 発掘機関 袋井市教育委員会
- 4 調査担当者 寺田義昭・五島康司・吉岡伸夫・永井義博・松井一明・前田庄一ほか
- 5 遺跡の種類 官衙跡・集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代前期～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

坂尻遺跡は、袋井市の東端、掛川市との境を南流する原野谷川の



（磐田）

西岸に形成された自然堤防上に立地し、遺跡面積は約六〇、〇〇〇㎡と推定される。国道一号線バイパス建設にともない約八、〇〇〇㎡が発掘調査され、古墳時代前期～中・近世の複合遺跡であることが判明した。特に奈良時代の遺構群（溝

状遺構二三条、掘立柱建物三七棟、柵二条、竪穴住居跡九棟、井戸状遺構二基、竪穴状遺構二三カ所) については、その出土遺物(墨書土器―「野厨」「佐野厨家」「駅長」等、木簡―『木簡研究』第四号既報告、銅印―印文「松」・和同開珎・銚帶具―丸柄・巡方・鉸具等)から佐益(野)郡衙の一部ではないかと考えられている。

木簡の削屑はNSD3と呼んだ溝状遺構の壁斜面に密着して発見された。こぶし大の礫を貼りしめた護岸施設と階段状の張り出し施設を有し、溝内には奈良時代後半を主体とする土器片(墨書土器を含む)が多量に集積していた。

## 8 木簡の积文・内容

(1)



1001

偏部が木偏と思われる一字は、或いは「松」かもしれない。

## 9 関係文献

建設省・静岡県・袋井市教育委員会『坂尻遺跡―一般国道一号袋井バイパス(袋井地区)埋蔵文化財発掘調査報告書―』(一九八五年)

(吉岡伸夫)



## 静岡・秋合遺跡

あきあわせ

1 所在地 静岡県藤枝市南新屋字白山

2 調査期間 一九八四年(昭59)十一月―一九八五年二月

3 発掘機関 藤枝市教育委員会

4 調査担当者 八木勝行・鈴木隆夫・磯部武男

5 遺跡の種類 官衙跡

6 遺跡の時代 奈良時代～中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

秋合遺跡は、国指定史跡志太郡衙跡より低丘陵を挟んで東側に隣接する水田地に存在する。一九七八年の調査によって掘立柱建物や



(家山・静岡)

井戸が検出され、出土した三七点の墨書土器の内容から志太郡衙跡ときわめて密接な関係にある遺跡として注目された。

一九七九年以来、秋合遺跡の性格把握と範囲確認のための調査を実施してきたが、今回の第四次調査によ